

さくら



令和5年12月11日(月)

西郷隆盛(さいごうたかもり)

子どもの頃から社会科が苦手で、とりわけ歴史となると難儀しました。同じような名前の人物が何人も出てきたり、人と人との関わりがややこしかったりと、頭が混乱していたことを憶えています。今になって考えると、もっと歴史について勉強しておけばよかったと思うばかりです。なぜなら、歴史を学ぶことには、次のようなメリットがあると思うからです。

1 「歴史上の人物から生き方を教えてもらえる」

2 「私たちが直面する問題を解決する糸口を見つけることができる」

3 「新たな時代を創造するための知恵を発見することができる」

このように歴史の学びには、生きていくための多くの知恵があるのではないかと思うのです。

歴史の学習が苦手な私でも、明治維新についてはとても興味をもっています。それは、若い頃に読んだ小説「竜馬がゆく」（司馬遼太郎 著）がきっかけでした。その中で、薩摩藩の西郷隆盛が出てきます。

西郷は、坂本竜馬（さかもとりょうま）と同じく下級武士の家に生まれました。しかし、不斷の努力と持ち前の胆力、そして豊かなコミュニケーション能力で多くの人脈を築いていきます。この能力が藩主である島津斉彬（しまづなりあきら）に認められ、藩の重職を任せられます。また、坂本との出会いは対立していた長州藩との同盟に結びつき、江戸幕府を倒す動きに結びつきました。西郷隆盛も、明治維新の立役者であることは間違いないかもしれません。

西郷には、好んで揮毫（きごう）【筆で字や絵を描くこと】した文字があります。「敬天愛人（けいてんあいじん）」です。この意味は、読んで字のごとく「天を敬い、人を愛す」というものです。西郷は天に見られていることを意識し、自らを厳しく律した人でした。また、人を大切にし、立場の弱い人を思いやる気持ちの強い人だったとも言われています。このような生き方に学びたいものです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

